

# 豪州準備銀行は政策金利を据え置き、政府予算案に注目

- 豪州準備銀行(RBA)は政策金利の据え置きを決定。更なる雇用情勢の改善とインフレの回復見通しを継続。
- RBAは雇用情勢について楽観的な見通しを維持。堅調な雇用情勢を背景とした賃金上昇率の加速を前向きに評価。
- 政府予算案の発表が注目材料。財政収支の想定以上の改善等を背景に、景気配慮型の予算案が期待される。
- 財政面からの景気サポートが実施に移されれば、内需拡大を牽引することが期待される。

## 豪州準備銀行は政策金利の据え置きを決定

豪州準備銀行(RBA)は4月2日の金融政策理事会で、29回連続の政策金利据え置きを決定しました(図1)。

政策決定の判断理由として、「更なる失業の低下とインフレの目標水準への回帰が予想される」との従来からの見通しを継続し、中立的な政策姿勢を示唆しました。

## RBAは雇用情勢に楽観的な見通しを維持

RBAは、雇用情勢について楽観的な見通しを維持しています。声明文において、「堅調な雇用情勢が賃金上昇を促す状況となっていることは、好ましい動向である」と評価しています。

足元の統計では、2月の雇用者数は前年比+2.3%となり、過去1年で28万人増加しました。失業率も4.9%と、2011年6月以来の水準まで低下しました(図2)。低迷していた賃金上昇率も緩やかな加速が観測されており、豪州の雇用環境は底堅さを維持している模様です。

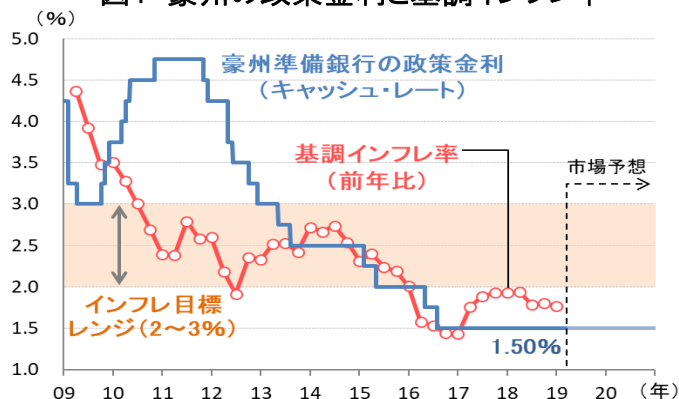
## 財政面からの景気サポートが期待される

一方、豪景気については家計消費の伸び悩みに言及し、「GDP統計から判断する景気は、雇用市場が示すほど強くない」との認識が示されました。

オーストラリアでは、本日夕方に来年度(2019年7月～2020年6月)の政府予算案が公表されます。

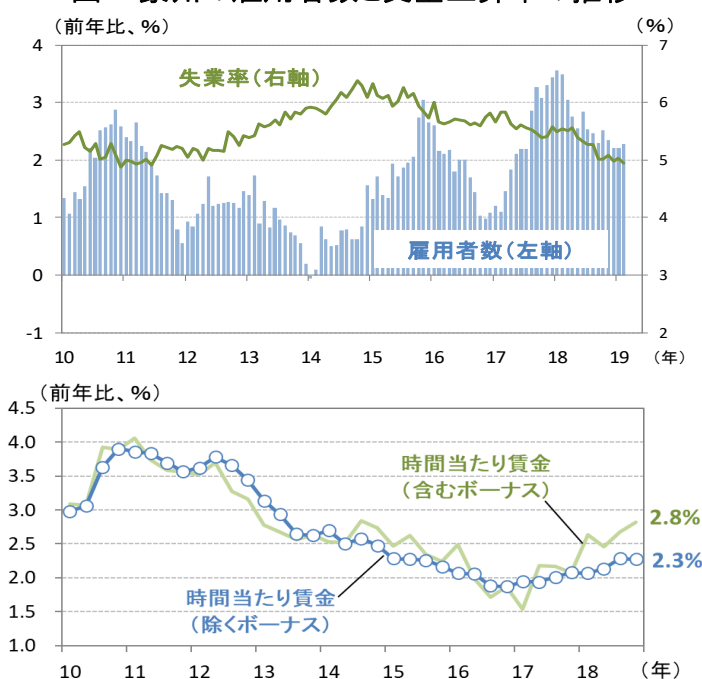
足元の財政収支が想定以上のペースで改善しているとみられるため、予算案では景気配慮型の政策を打ち出しやすい状況にあると思われます。また、総選挙実施の予定日を5月に控えていることから、家計所得向上など、現政権の支持率回復に寄与する政策が織り込まれる可能性があります。財政面からの景気サポートが実施に移されれば、豪州の内需拡大を牽引すると期待されます。

図1: 豪州の政策金利と基調インフレ率



(出所) 豪州準備銀行(RBA)、豪州政府統計局(ABS)  
 (期間) 基調インフレ率: 2009年1Q～2018年4Q  
 政策金利: 2009年1月1日～2019年4月2日  
 (注) 基調インフレ率は消費者物価指数(CPI)のトリム平均値と加重中央値の平均により算出。市場予想は3月27日時点。

図2: 豪州の雇用者数と賃金上昇率の推移



(出所) 豪州政府統計局(ABS)  
 (期間) 雇用者数・失業率: 2010年1月～2019年2月  
 賃金: 2010年1Q～2018年4Q

●当資料は、説明資料としてレグ・メイソン・アセット・マネジメント株式会社(以下「当社」)が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したものです。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。●当資料に記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。